

## 6

## 新たな領域への挑戦:文化遺産・スマートシティ・スポーツ

NTTグループは2010年以降、文化遺産保全やスマートシティ構築支援、スポーツ協業などの新領域にも事業領域を広げている。NTTコミュニケーションズやNTTデータ、NTTドコモ、NTT Ltd.などがそれぞれの技術や海外拠点を生かし、国際的に注目されるプロジェクトを展開するケースが相次いでいる。本節では、そうした事例を文化遺産、スマートシティ、スポーツの3つのカテゴリーに整理し、NTTグループの技術・ブランドがどのように活用されているのかを見ていく。

## 6-1. 文化遺産保全とデジタルアーカイブ

## (1) バチカン図書館との共同プロジェクト

## ① AMLAD 活用による写本デジタル化

2014年、NTTデータはバチカン図書館と、同館が所蔵する歴史的写本(マニスクリプト)のデジタルアーカイブ化に関する初期契約を締結し、同プロジェクトに参画した(図表3-6-1)。NTTデータが開発した「AMLAD」(Advanced Museum Library Archives Deposit)の技術を用いて高精細画像を長期保存し、オンラインで公開する仕組みを提供するものだ。初期段階では約3000冊を対象とし、将来的には同館所蔵の約8万冊すべてのデジタル

化を目標としている。

バチカン図書館が保有する写本や文書は、世界史や宗教史の研究において非常に高い価値を持つ。しかし、紙媒体のままでは劣化や災害のリスクが高く、また、研究者が現地に足を運ばなければ閲覧できないという制約があった。AMLADによるデジタルアーカイブ化は、そうした課題を解消し、無料かつ遠隔でのコンテンツへのアクセスを実現している。

## ② 3D スキャンと Web3 活用

NTTデータは2019年頃からは、バチカン図書館と3Dスキャン技術を活用した歴史的建築物のデジタル化に取り組んでいる。さらに、2023年にはWeb3/NFTを活用した支援プロジェクトを試行している。クラウドファンディング的な仕組みで支援者を募り、SNSシェアや寄付行為に対してNFTを返礼品として付与することで、文化財保全への意識を高める取り組みである。

このように、NTTグループの高度な画像処理・ネットワーク技術は、文化遺産保全においても国際的に高く評価されており、バチカン図書館はNTTデータとともに「未来へ残す」ための新しい仕組みを実装している。

## (2) ASEAN Cultural Heritage Digital Archive (ACHDA)

図表3-6-1 ▶ バチカン図書館



バチカン図書館内部の様子



バチカン図書館に実際に所蔵されている書物(例)

出所: NTT「8万冊の歴史的文献を、時の劣化から守る - バチカン図書館 デジタルアーカイブ化プロジェクト (NTTデータ)」(2021年3月14日)